

## 経済・金融情報端末の導入

安孫子勇一

近畿大学経済学部では、経済・金融情報端末を積極的に導入しています。経済学部生の皆さんが実務の感触を味わい、理解を深める上で格好の教材だからです。他の大学には殆どないものも、近畿大学ではいち早く取り入れています。

(経済・金融情報端末とは?)

銀行や証券会社のディーリング・ルームには、テレビ等でご存知かも知れませんが、外部から刻々と最新情報が入ってくる経済・金融情報端末が多数設置されています。世界の主要市場における外国為替・株式・債券・商品などの各種市況(現在だけでなく過去の推移も含む)、各国経済の動向を示す経済指標(同)、市況に影響を与える重要ニュース(各種の政策変更、事件、要人発言や市場予想等)など、沢山の情報を瞬時に入手できるものです。市場のプロ達は、こうした経済・金融情報端末から得られる大量の情報を駆使して将来を予測し、金融商品等の売り時、買い時を必死で探っているのです。

最近ではインターネットでも色々な情報がとれますが、経済・金融情報端末に比べ、情報の鮮度が低く、過去のデータが十分取れないなど、大きく見劣りします。プロの道具は格段に便利なのです。

(具体例)

経済学部が昨年設置された「ブルンバーク社」の情報端末は、とくに市場情報が得意です。世界各地の最新の各種市況データだけでなく、過去の値やそのグラフを簡単に表示できます。重要なニュースも教えてくれますし、IMF(国際通貨基金)の経済・金融データベースも収録しています。将来金融市場で働きたい人は、経済学部資料室で擬似体験できるのです。

今年から国際経済コースなどで使えるようになった「JCIF(国際金融情報センター)」のインターネット情報サービスは、文字情報が得意です。アジアやヨーロッパなど世界各国の基礎的な経済・金融情報、カントリーリスク情報などを日本語で得られるほか、それらの背景をまとめたレポートも読めます。

「日経テレコン21」というデータベースも、自宅を使えばかなり高額ですが、経済学部資料室や中央図書館など学内のパソコンでは無料で使えます。中央図書館のホームページ経由で入れ、日本経済新聞社系の記事検索、マクロ経済統計や地域経済統計のダウンロードなどができます。

これらの経済・金融情報端末を積極的に活用して、皆さんが将来に向けて確かなキャリア・パスを切り拓いていくことを念願しています。(2005年7月記)